



社団法人ロシアNIS貿易会・ロシアNIS経済研究所 次長

服部倫卓

ロシアの直接投資の動向

恒例の『世界投資報告書』が発行される

国連貿易開発会議(UNCTAD)は9月17日、『世界投資報告書』の2009年版を発表しました。これは同機関が全世界の直接投資、M&Aおよび多国籍企業の動向を分析して毎年この時期に刊行しているもので、国際的な投資活動を把握するうえでのバイブル的な出版物として広く利用されています。昨年秋以降、金融・経済危機の影響が拡大しているだけに、2009年版の報告書がどんな分析を示しているか、注目されるどころです。そこで、同報告書のなかから、ロシアに関連する部分の要旨を、まとめてみることにします。

対内直接投資

直接投資のうち、まずロシア側が諸外国から受け入れる「対内直接投資」について見てみましょう。

ロシアでは、秋以降の金融・経済危機にもかかわらず、上半期の貯金がモノを言って、2008年全体の対内直接投資の受入額は過去最高を記録しました。2008年にロシアが受け入れた直接投資は約703億米ドルで、前年比27.7%増でした。2008年現在の直接投資受入残高は約2,137億米ドルとなっています。

UNCTADによれば、2008年にロシアの対内直接投資が増大したのは、電力部門の自由化、自動車や不動産部門の活況によるところが大きかったとされています。トピックスとしては、ルノーによるAvtoVAZ(ロシア最大の乗用車メーカー)への追加出資や、食品・飲料・タバコ分野での投資増も注目されるとのこと。EUの多国籍企業からの投資が主流となっています。



COLUMN



しかし、2008年後半になると、グルジアとの紛争、投資環境の悪化、経済成長の頭打ちにより、投資家のロシアに対する信認が揺らぎ、油価が下落に向かったことで鉱業部門への投資も減少に転じました。ロシアの対内直接投資は、2008年第2四半期に約227億米ドルというピークを記録したあと、第3四半期は約168億米ドル、第4四半期は約103億米ドル、そして2009年第1四半期は約100億米ドルと推移しています。

対外直接投資

次に、「対外直接投資」、つまりロシアから諸外国への直接投資について見てみましょう。実は、UNCTADはロシアをはじめとする市場経済移行諸国、新興国が国際的な投資国として台頭していることに着目し、2006年版の『世界投資報告書』でその問題に焦点をあてた特集を組んでいます。なかでも新たな投資主体として脚光を浴びているのが、ロシアです。ロシアは2008年にも、世界の途上国および市場経済移行諸国のなかで、香港に次いで2番目に対外直接投資の実績が大きな国になりました。

2008年のロシアの対外直接投資は約524億米ドルで、前年比14.1%増でした。2008年現在の投資残高は、2,028億米ドルです。対外投資についても、年の前半と後半で、様相が大きく異なります。上半期には十分な流動性があり、ロシアの投資家による新市場進出や資源確保の意欲には強いものがありました。しかし、下半期になると投資家の間に投資やM&Aを手控える動きが広がったとされています。

当面の見通し

UNCTADでは、ロシアおよび近隣諸国の対内直接投資受入の展望が短期的には厳しいにしても、中長期的には必ずしも悲観すべきものではないとしています。現にロシアでは、財政の逼迫で石油・ガス開発に自前で投資することが難しくなったことから、サハリン3や4のプロジェクトへの参加をシェルなどの外資に呼びかけています。

一方、ロシアからの対外直接投資に関して言えば、2009年の減速は避けられないものの、同年に入って石油大手のスルグトネフチェガスが初めての大型対外投資としてハンガリーの石油会社に出資するといった動きもあったことを指摘しています。

